

# PAM通信 コラム

2007年7月発行

## <第4回>タイトル：地球に優しい・・・？

最近PAMでは環境保護運動に賛同し、レジ袋を削減するためのマイバッグを作製し関係者に配布しました。そこで今回はコラムでも環境問題をテーマにしてみました。

環境問題を考えるとき、実益はあるけれど少し変だと感じる表現に「地球に優しい～」があります。地球は優しくされて嬉しいのだろうか？と考えてしまいます。地球からの視点で考えてみると、環境が破壊され平均気温が上昇し温暖化が起きても、地球自身は何も困らないこととなります。過去の地球では大きな環境変動で生物種のほとんどが絶滅する事態が何度も起きています。その度に生き残った生物種が繁殖し、結果として現在の人間の繁栄があると言えます。さらに言えば、過去の大きな環境変動で恐竜などの生物種が絶滅しなければ、現在の人間の繁栄はないと言えます。地球にとって、どの生物種が繁栄するかには優劣はありません。こう考えると「地球に優しい～」は、「現在の人間が生活をするのできる地球環境に都合の良い～」という意味であり、「自分たちの子孫に優しい～」が正確な表現だと言えるでしょう。

「地球に優しい～」と似た概念である「ガイア仮説」は、地球は一つの生命体であり、生物は相互に影響し合い地球環境を作り上げていると考え、影響し合うバランスを崩すと地球環境も崩れると考えます。また、「宇宙船地球号」という概念では、人間の生きられる環境は宇宙の中に地球しかなく、その有限な地球資源を循環して使用している生態系システムの中に自分がいることを意識しなければならないと考えます。

地球に優しいとPRされる商品が売れることは企業の経済利益と環境への負担を軽減する行動が一致することで、実益があることになり良いことですし、経済活動なしに現代の人間は生きられません。しかし、上で紹介した2つの概念に比べると「地球に優しい～」は、商業的なうさん臭さと、地球の中で人間は特別な種であるとの現代人の思い上がりを感じられます。客観的で謙虚な視点から環境問題を考えることが、その取り組みをブームで終わせないために重要だと思います。そして、環境保護商品として売られている、地球に優しいミネラルウォーターや地球に優しいラーメンなど、怪しい商品の存在には気をつけたいものです。

パナソニックアシスタント町田 194-0013 町田市原町田 2-7-19-106 Mail : [pam@w7.dion.ne.jp](mailto:pam@w7.dion.ne.jp) 緊急時 : 090-1406-9367